

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第75回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

歯根膜の機能を臨床に生かす

下地 勲 先生

東京都開業

平成25年12月12日 (木) 18:30~20:30

大会議室 (C棟 1階)

近年、GTR、EMD、GBR、PRPなど、いわゆる再生療法への期待は高まるばかりである。しかし、今回は特別な手段あるいは材料などを利用するのではなく、すでに存在する生体の組織である歯根膜のもつ機能をいかに最大限に引き出し、臨床効果をあげるのかをとりあげたい。

歯根膜については、すでに膨大な量の基礎研究は発表されているが、臨床の中で歯根膜が実際にどのような役割をはたしているのか、さらには治療の中の様々な局面で具体的に歯根膜をどう活用すればよいのかを包括的に示した報告は非常に少ない。

歯根膜を最大限に活用する治療が自家歯牙移植であるが、移植以外にもエンド、ペリオなど臨床全般に及ぶ歯根膜の活用例についてふれたい。症例の選択にあたっては、歯科臨床における個々の処置の妥当性は長期的な予後がどうかにかかっていることから短期経過症例はとりあげず、原則として15年以上経過したケースをもとにお話したい。

略歴

1948年 沖縄県生まれ
1972年 東北大学歯学部卒業
1975年 那覇市開業
1984年 国立市開業

主な著書(書籍)

「歯の長期保存の臨床」(編著、2013年、デンタルダイヤモンド社)
「歯根膜活用術」(編著、2011年、医歯薬出版、歯界展望別冊)
「月刊 下地 勲:歯はここまで残せる 一セカンドオピニオンの実践一」(2011年、デンタルダイヤモンド社)
「歯根膜による再生治療」(2009年、医歯薬出版)
「入門・自家歯牙移植 一理論と臨床一」(1995年、永末書店)
「自家歯牙移植の臨床像」(編著、1996年、クインテッセンス出版)
「治癒の病理一臨床編・第3巻・歯の移植・再植」(共著、1995年、医歯薬出版)

モデレーター

佐々木 啓一 (口腔システム補綴学分野)

笹野 高嗣 (口腔診断学分野)